

氏名	櫻 木 悟
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Diagnostic Value of the Recovery Time-course of ST Slope on Exercise ECG in Discriminating False- from True-positive ST-segment Depressions (運動負荷心電図におけるST スロープの経時的変化の診断的意義について)
論文審査委員	教授 梶谷 文彦 教授 佐野 俊二 助教授 上岡 博

学位論文内容の要旨

本研究においては、運動終了後回復期における ST-T 部分の経時的な変化のパターンにより、運動負荷試験真陽性 ST 低下例と偽陽性 ST 低下例が鑑別できるか否かを検討した。対象はトレッドミル運動負荷試験にて有意な ST 低下を認めた 134 症例で、冠動脈造影あるいは運動負荷シンチの結果に真陽性例 (TP group) と偽陽性例 (FP group) の 2 群に分類した。心電図上の J 点と J80 の間の傾きを ST slope 値とし、運動終了時から回復期 6 分まで 1 分ごとに計測し、両群間で比較した。運動終了時から回復期 3 分にかけては ST slope 値はいずれも FP group で高値だった。その後、ST slope 値は TP group において増加したが、一方 FP group では逆に減少した。回復期 3 分から 6 分にかけて ST slope 値が減少した症例は FP group で 88% だったのに対して、TP group ではわずかに 19% だった。運動終了後回復早期から回復後期にかけての ST slope 値の変化は偽陽性 ST 低下例を真陽性例と鑑別するのに有用と考えられた。

論文審査結果の要旨

トレッドミル運動負荷試験にて心電図上有意な ST 低下例を認めた 198 症例を対象として、冠動脈造影あるいは運動負荷シンチの結果が陽性であった真陽性例 (TP 群: 134 例、年齢 62 ± 9 歳) と陰性であった偽陽性例 (FP 群: 64 例、年齢 63 ± 10 歳) の 2 群に分類して、両者の鑑別を目的とした。この 2 群について、運動終了後回復期 6 分間における ST-T 部分の経時的な変化 (ST slope 値) により、TP 群と FP 群が判別できるか否かを検討した。その結果、回復期 3 分の ST slope 値は FP 群で高値で、その後の ST slope 値は TP 群において増加したが、FP 群では逆に減少した。以上、本研究では、運動負荷回復期 ST slope 値の変化は TP 群と FP 群を判別するのに有用であることを明らかにしたもので価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。